

座談会 『RAC 提唱クラブの苦勞』

今月は、ローターアクト週間です。RACには、いろんな問題があります。会員が増えないというのもその1つでしょう。提唱クラブが努力しているにも関わらず、会員増強がうまくいかないというのは、増強努力が足りないからだというような単純な問題でなくて、RACそのものに構造上の問題があるのかもしれない。

今回は、実際にRACを提唱しておられる門司西RCの4人の会員の方々にお集まり願って、RACについての苦勞話や問題点を、本音で話し合ってもらった。RACの今後の発展にとって、他山の石となれば幸である。(月信担当)

出席者 門司西ロータークラブ

林 徹道 田村 常美
伊藤 隆三 平田 善一



林 今月は世界ローターアクト週間の月なので、RAについての苦勞話を思う

ままに話して貰いたいという月信編集部からの要請があった。門司西クラブでローターアクトクラブを提唱して、今年で19年になる。その間には、充実した年度もあったし、停滞の1年もあった。提唱以来長い年月が経つと、提唱当時の熱意が忘れられて、なんでわがクラブだけこんなに苦勞しなければいけないのかという会員もある。

ここで、ローターアクトについての我々の偽らざる気持ちを率直に話してみよう。我々の率直な意見のなかに、たとえローターアクトの考えと矛盾するところがあっても、それはそれで意味があると思う。

田村 門司西のRAは現在19名だが、7名が30才で退会する

ので、12名になる。年齢退会という制度に問題がある。それと、アクトに主体性がなく自主的運営が難しいとか、甘えがあることが問題だ。

林 始めから大きな問題が出た。

伊藤 スポンサー・クラブに依存しながらRと同じことをやろうとするとところに無理がある。もっと、スリム化、簡素化が必要だ。

林 RAの会員が増えるか、減るかは、その時の親クラブの考え方によるのではないか。

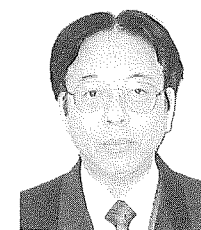
伊藤 それと、リーダーシップをとれる会員がいるかどうかによる。ここにRAの問題点があるといってもよい。

伊藤 RAもローターと同じように委員会が多い。極端に言うと、会員が10人位しかいないのに、委員会が4つも5つもある。しかも、その委員会は全く活動していない。

田村 なかなか難しい問題だ。

若い人が集まると、どうしても楽しいほうに走りやすい。ボーリングだとか、ビリヤード大会をやろうとか。なんだか趣味の会みたいで、なにがローターアクトだという点がある。勿論、毎回堅苦しいことをやる必要はないけれども、レジャーを楽しんでいてもいいから、なにかそこに一本筋の通っているものが欲しい。

林 RACを提唱しているクラブでは、財政的負担も大きいし、分担金も少ないものではない。会員増強が頭打ちになり、クラブ財政が苦しくなると、この問題が出てくる。



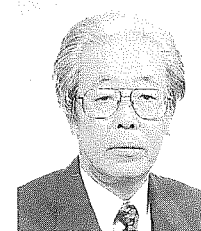
田村 それを突き詰めていくとRACを提唱しているクラブは、委員会活動で苦

勞するうえに、財政的負担でも苦勞する。ローターアクトを提唱することは、地域の若者を育

てるために意義ある奉仕活動ではあるけれども、なぜ提唱クラブだけが苦勞しなければいけないのか、未提唱クラブからも資金を提供して貰っていいのではないかという意見が出る。私の発想だと、RACを提唱していないクラブからも分担金を徴収しろということだ。

伊藤 ことに、クラブから地区代表が出ると、以前はその経費の殆ど全額をクラブで賄っていた。こういった費用だとか、地区大会の経費なども、運営方法をもっと簡素化すると、うんと少なくて済むのではないか。

地区の分担金はなるべく少なくして、クラブでの活動費を多くすべきだ。



平田 話は変わるが、ローターアクトについて、一般の人は勿論、ローターアクトの会員でさえ理解していないのではないか。私自身も、ローターアクトとは何かと聞かれると、返答に窮する。一般の若者でローターアクトに入会したいという人がいたのだろうか。

田村 いや、ないだろう。RACに連れて行かれて、「それって何？」というのが、まず第一印象でしょうね。点鐘があって、歌を唄って、これは宗教団体かなと思う。変なところに誘われて、身構えて、義理で来たけれども次は止そうかなということが多いらしい。

平田 一般市民の感覚として、ローターアクトそのものも、特殊な

人の集まりだと思われている。その中で、ローターアクトのような組織があるということ、一般に知ってもらうことは、仲々難しい。

田村 ローターアクトの入会前にローターアクトについての情報を十分に提供しなければいけないということと一緒に、RACについて、一般の人にもっと知って貰いたい。

林 ローターアクトを一言で説明するのは難しい。皆さん口では説明出来ない。体験して貰えば、言葉では説明出来ない良さがあるんだな。

田村 ローターアクトも結局は人の繋がりだ。アクトになって、人脈、人との交流の輪が出来る。同じ目的をもっていろんな人と親しみが持てる。ローターアクトということで、世界中どこへ行っても友達になれる、そんな良さをもっと我々も実感として持たなくちゃいけないのだろう。



伊藤 RACの世話をやっていると感じるのは、地区の人達がローターアクトを知ら

なさ過ぎるということだ。平田 ロータリアンが、もっとローターアクトの活動について解っていないくちやね。ローターアクトは、増強で会員の数ばかり増えて、昔のロータリアンと今では、会員の意識に違いがあると思う。私達は、ローターアクトに入れたとき、50才くらいにならないと入会の資格は

ないなと思っていた。一般の人より一段レベルの高いところでいろんな奉仕活動をやっている、それが凄いなという感覚で見ていた。そういった、いうなれば職業を通してのロータリアンの誇りのようなものがアクト達に伝わっていかねばならないのではないだろうか。

田村 他のクラブをみてもそうだが、年齢が若いから、ローターアクトに入会してすぐとか、1年や2年の会員が委員になって、ローターアクトを任せられている。ローターアクトのことが全くわかっていないのに、ローターアクトを指導しろと言われても、全く無理だ。これは考えてほしい。

ローターアクトとRACとの接点、うちのクラブはそれがあってほしいと思うが、これが大切だ。ただお金だけ出して後は知らないでは、ローターアクトではない。

林 例会にローターアクトが多いほどアクトは喜ぶし、例会でローターアクトのことがばりではなしに、自分の人生体験を話してもらおうと彼等は喜ぶんだ。

平田 RACとかIACを作るきっかけはなんだろう。地区とかRI会長が薦めるのだろうか。こういう永続的なプロジェクトは、余程将来を深く考えたうえで実施に移さなければいけない。そのときの会長の思い付きだけでやるべきではない。

田村 十分な調査と将来への見通しなしに提唱すると、よい結果は得られない。ローターアクトにしても、会社の命令があるから参加しているとか、名前

だけの幽霊会員がいるとか、形式的な活動になってしまっは、奉仕活動のコストとエフェクトの面からも、また会員の努力に対する効果の面からも大きな損失だ。

林 クラブでRACを持って良かったかどうか疑問がないではないが、学校教育など色々問題の多い現在こそ、ローターアクトは青少年のために必要なのではないか。それにしても、ローターアクトを持っていると、くたびれる。

田村 途中でロータリー・クラブを止めたくることがある。

伊藤 奉仕活動が会員の重荷だと感じられるときは、活動そのものを見直す必要があるのではないか。

田村 クラブで、他の委員会はローターアクトのことを全く知らない。もっと相互理解が必要だ。ローターアクトを提唱しているのなら、もっとクラブで責任を持つべきだ。

ローターアクトは大変であるけれども、ローターアクトを通じて、國府カウンセラーのお話を伺ったり、他クラブや他地区の会員の方とも交流が出来て、得るところも多い。「大変だ」ということは止めよう。

伊藤 門司区には、門司クラブと門司西クラブの2クラブがある。2つが一緒になってRACを育てるべきだ。

林 共同提唱の話もあったが、責任の所在が不明確だということで実現しなかった。会員の紹介を依頼する程度ではないか。共同提唱ならうまくいくのかも

知れない。直方や若松ではうまく行っているようだ。

平田 門司区は、企業の撤退や地元経営者の高齢化が目立つが、こういう所こそ、若い人を育てて行かなくてはならない。その点からもRACというのは地域的な意味がある。

田村 ローターアクトは、ロータリーの悪いところを真似している点がある。手続要覧には、ローターアクトはロータリーとは違うんだと書いてある。たとえば、ローターアクトの地区大会なども、もっと簡素化してよい。

平田 それを解らないまま指導しているということか。ローターアクトは、外国の発想を日本に持って来て、そのまま日本社会に根付かせようとしている。そこに無理があるのではないか。日本には昔から若衆宿とか青年団とか、若者のための集まりがある。そういうものの良さをもっと取り入れてよいのではないか。

田村 外国のRACは、ロータリー・クラブから補助金は一切出ない。自分達でバザーなどをやって活動資金をつくっている。日本のRACは、過保護だ。大屋直前ガバナーは、「ローターアクトはヤング・アダルトの集まりだ」と言われるが、全くその通り。アクター達はもっと大人として、依存体質を除いて行動して欲しい。

林 ローターアクトの年齢が18才から30才までというのが問題だ。35才くらいまで延ばしたらという意見があるが、私も同感だ。

田村 年齢退会するとき、まだまだ続けたいというアクターが多い。地域によっては、OB会が活躍している。これが会員増強の力にもなっている。

アクター達をみていると、それなりに進歩している。年齢の幅を広くすることによって、彼等は更に進歩する。

それと、RACも幾つかのクラブが集まって、RYLAのような研修会をやるといい。クラブ単位では、そこまでやる余裕がない。

林 内容的には、法人会員よりも個人会員が増えたほうが、クラブが充実するというところもある。門司地区でも、商売をやっていたり事業をやっているところの子弟の個人的な参加がもっと欲しい。

田村 ローターアクトの場合は、ロータリーと違って、会員の出入りが激しいから、クラブの伝統というものが生まれにくい。それに対してロータリークラブがどこまで関与していくべきか。先にも話があったが、過保護はいけない。あまり関与し過ぎると、ローターアクトの主体性が失われ、萎縮してしまう。ロータリーとローターアクトとは、先生と生徒の関係ではない。かといって放任すると、ロータリーの目指す方向と違うところへ行ってしまう。これを見極めるのが、今後の大きな課題だ。

林 まだまだ、いろんな意見があると思うが、いまの田村さんの発言を結論ということにして、この座談会を終わりとする。